

# 学びの 広場

地域で学び、活動する  
皆さんを応援します  
北秋田市教育委員会

- 公民館活動 ●生涯学習
- 文化振興 ●学校 ●スポーツ



## 郷土の偉人 畠山義郎を語り継ぐ

～第156回「合川ろばた講座」～

今年度で40周年を迎える「合川ろばた講座」が、3月14日に合川公民館で行われ、約50人が参加し、北秋田市名誉市民で元合川町長の故・畠山義郎氏の偉業と功績を語り合いました。

今回の講座では「郷土の偉人 畠山義郎を語り継ぐ」と題し、話題提供者として和田勇治さん、安部綱江さん、関源一さんを迎え、畠山氏のエピソードや幼少期から晩年までの写真の紹介も交えながら、旧合川町長を10期40年務め、地域の発展に尽力した畠山氏の功績について意見を交わしました。

参加者からは、畠山氏との思い出や活発な意見が飛び交い、盛会な講座となりました。



▲故・畠山氏の功績を語り合った合川ろばた講座

## コミュニケーションの大切さを学ぶ

～コムコム定期講座「グッドライフ講座」～

コムコム定期講座「グッドライフ講座」が、2月23日に市民ふれあいプラザで行われ、あきたAT研究会の高橋静子さん（秋田市）が「コミュニケーションで変身！アクティブシニア」と題して講演しました。

参加した受講生14人はメモを取りながら、自分と相手どちらも大切にコミュニケーションについて学び、また、実際に事例を体験して正しい言葉遣いの大切さを実感していました。

体験後、受講生からは「優しい言葉をかけると優

しい言葉で返ってくるのが分かった」「これから優しい言葉遣いを心がけたい」と声が上がりました。



▲コミュニケーションの大切さを学ぶ受講生

## 学習を通じて教養を高め絆深める

～阿仁生き生き大学 学習会と修了・閉講式～

阿仁生き生き大学（西根邦明学長）の学習会及び修了式・閉講式が、3月10日に阿仁ふるさと文化センターで行われ、学生40人が出席しました。

学習会では、講師の太平寺前住職で詩人の亀谷健樹さんが「こころの健康～マインドフルネス 長寿社会における真の幸せとは」と題し、103歳まで長生きした女性の話に触れ、朝に昆布水を飲み、来客との対話を楽しみ、笑顔を絶やさないなど、長寿の秘訣10か条を語りました。

引き続き行われた修了式・閉講式では、皆勤賞

14人の表彰に続き、学士号などの称号が授与され、今年度の学習を締めくくりました。



▲今年度最後の学習会で講演を聴く受講生

### 高齢者大学受講生募集！

各大学とも5月開講です

平成29年度高齢者大学を各地区で5月に開講します。受講を希望される方は、生涯学習課又は各公民館へお申し込みください。

#### 【各大学共通】

対象者 55歳以上の方  
運営費（負担金） 10000円



#### ○高鷹大学

テーマ

「自分の学びを地域のために」  
内容 全体講座など年6回程度  
(クラブ活動は月1～2回)

受付期間 4月3日(月)～14日(金)  
問合せ 生涯学習課 ☎62・1130

#### ○合川ことぶき大学

テーマ

「仲間との絆を深め、ともに学ぼう」  
内容 年8回実施の予定(学習会、移動教室、スポーツレクなど)

受付期間 4月3日(月)～28日(金)  
問合せ 合川公民館 ☎78・2114

#### ○森吉大学

テーマ「ふるさとの歴史を学ぼう」

内容 年7回実施の予定(講演会、移動研修、学習会など)

受付期間 4月3日(月)～21日(金)  
問合せ 森吉公民館 ☎72・3259

### ○阿仁生き生き大学

テーマ

「仲間と交流 ともに学びあおう」  
内容 年6回実施の予定(講演会、移動研修、スポーツ交流など)

受付期間 4月3日(月)～28日(金)  
問合せ 阿仁公民館 ☎82・2220

市民ふれあいプラザ、各公民館の  
使用料減免登録申請を受付ます

問合せ 生涯学習課、各公民館

市民ふれあいプラザ、各公民館で使用予定の団体で、平成29年度「使用料減免登録証(カード)」の交付を希望する団体は、利用する施設に申請してください。  
なお、昨年度交付された団体であっても、新たに申請が必要です。

### 今月のおすすめの本を紹介します

問 鷹巣図書館 ☎62・3311

▽狂うひと(梯久美子 著)

▽ただしもちかたの絵本(WILL L ことば知育研究所 編・著)

▽花粉症アレルギーを自分で治す

70の知恵(水嶋文雄 監修)

▽私はいつだって、何と闘っているのか(つばやしシロー 著)

《閲覧可能な政党機関紙(5紙)》

自由民主/民進プレス/公明新聞  
しんぶん赤旗/社会新報

### ふるさとの文化財

#### 「旧石器時代編」

#### ○ナイフ形石器

(二重鳥A遺跡出土)

今回は旧石器時代編として、この時代の道具の一つを紹介します。旧石器時代は縄文時代の一つ前の時代区分で、今から9～8万年前から1万6千年前頃を指します。この時代は氷河期にあたり、最も寒かった2万年前は現在よりも平均気温が7度低く、樺太と北海道は陸続きで、対馬海峡も狭まった環境でした。この時、大陸から日本列島に人が入り、秋田県には3万年前頃に人が住み始めたと考えられています。

また石器は発明されておらず、石器のほか、骨や木で作った道具、皮革製品などは充実していたものと思われまます。中でも石器は主要な道具で、もともとなる原石・礫から打ち割った薄い短冊のような剥片(石刃)を巧みに加工して用途に応じた石器を作っていました。

北秋田市では、二重鳥A遺跡でこの旧石器時代の遺跡が初めて調査され、約400点の石器が見つかりました。写真は旧石器時代の

最も特徴的な石器で、ナイフ形石器と呼ばれるものです。ナイフや包丁のように使われたと考えられていますが、長い柄の先に固定して槍先としての用途も考えられます。このほか、皮なめしに使ったと考えられる石器(搔器)などと一緒に見つかっています。石器の特徴から2万年前から1万8千年前頃のものと思われる。

旧石器時代は、大型動物の群れを追いかけ、狩りをする移動生活をしてきたと考えられています。二重鳥A遺跡は小又川を見下ろす山間の小高い台地の上であり、一時的なキャンプの跡と思われます。現在、このナイフ形石器は北秋田市で作られた最古の道具で、北秋田の歴史の始まりを物語っています。



▲ナイフ形石器

▽紹介者/北秋田市教育委員会生涯学習課文化係